

週報 みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

JF 共済・漁業共済・漁船保険 漁協役員研修会



9月1日(金)華王殿(松阪市)にて「JF共済・漁業共済・漁船保険 漁協役員研修会」が開催されました。

当研修会は、各団体の事業概要や取り組みについての理解を深め、今後の推進強化を図ることを目的とし、今回が初めての開催となりました。

冒頭の挨拶で、三重県JF共済推進部長の浅井利一氏(三重外湾漁協組合長)は「この研修会で各団体の事業を理解し、情報を交換し、これからの浜の振興に役立たせてほしい」と述べました。

研修内容は右記のとおり行われ、参加者からは「各団体の事業も知り、交流も深められた良い機会となった。これからは浜のために一丸となって事業に取り組んでいきたい」と話していました。

- ・三重県JF共済推進本部
「JF共済の必要性と普及について」
(全国共済水産業協同組合連合会
常務理事 高田 明生 氏)
- ・三重県漁業共済組合
「漁業共済の概要について」
(全国漁業共済組合連合会
常務理事 内海 和彦 氏)
- ・日本漁船保険組合
「漁船保険未加入船の加入推進について」
(日本漁船保険組合 三重県支所
支所長 山際 寛 氏)
- 講演「水産を巡る状況について」
(水産庁 増殖推進部
研究指導課長 井上 清和 氏)

第17回 鳥羽地区黒のり夏期研修会

鳥羽地区黒のり養殖研究協議会は9月5日(火)菅島漁村センター(鳥羽市)にて「第17回鳥羽地区黒のり夏期研修会」を開催しました。

研修会前半には5つの講義が行われ、鳥羽市水産研究所の岩尾豊紀氏からは今漁期の種付け試験の結果報告と、ドローンによる海苔漁場観測へ向けての新しい取り組みが紹介されました。また、三

重県漁連・のり海藻課からは今漁期の安全・安心な品質づくりへの取組みについて、指導部からは鳥羽地区の葉体冷凍技術のPR方法についての講義があり、三重県水産研究所鈴鹿水産研究室の山田大貴氏からは、今漁期の生産対策と研究課題について、みえぎょれん販売(株)石倉正雄氏からは近年の海苔の市場動向についての講義がなされました。

その他にも木曾川下流河川事務所による河川管理についての情報提供や、メーカーからの食害対策商品の紹介がある等、盛りだくさんの内容となりました。



【研修会の様子】

うみ・ひと・くらし シンポジウム2017

(一財)東京水産振興会は9月2日(土)、3日(日)に和歌山大学他にて、「うみ・ひと・くらしシンポジウム2017 in 和歌山～いかに若い人を呼び込むか～」を開催し、三重県からは三重県漁協女性部連合会と、香良洲漁協女性部、松阪漁協女性部が参加しました。

当シンポジウムは地元資源を活かし、漁村の元気を取り戻す活動を行っている全国各地の漁村女性部が、その情報を

交換し合い、具体的な課題に応える場として、これまでに全国9地区で開催されてきました。

シンポジウム前半の試食会では、12団体が自慢の食材や加工品を出し合い、机には料理が所狭しと並びました。会場からは「どの料理もととても美味しい」との声が聞こえ、試食した方からは、自分たちの浜でも取り入れられないかと意欲を覗かせていました。

後半の意見交換会では、和歌山県漁協女性部連合会の中本京子会長と、和歌浦漁協女性部の藪江津子部長から、地元名産のシラス等を活用した食堂、直売所の取組みについて紹介がありました。翌3日(日)には、実際にその食堂と直売所の視察研修が行われ、参加者は地元資源を上手く生かす方法や、人を呼び込む工夫等を学びました。



【試食会の様子】



【うるめ寿司】

和歌山南漁業協同組合
奏浦女性部



【紀州あかもく】

JF 紀州日高女性部

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。